

情報通信審議会 情報通信技術分科会

電波利用環境委員会 CISPR B 作業班(第 12 回)議事録(案)

日時 : 平成 28 年 12 月 5 日(月) 10:00~11:45

場所 : 総務省中央合同庁舎第 2 号館 11 階第 3 特別会議室

出席者(敬称略):

(構成員)

主任	清水 敏久	首都大学東京大学院理工学研究科 教授
主任代理	塚原 仁	日産自動車(株)電子・電動要素開発本部 電子システム開発部 電子信頼性グループ主査
構成員	相川 和則	電気事業連合会情報通信部副部長
	井上 博史	(一社)日本電機工業会 技術部 技術企画課 担当課長
	井上 正弘	(一社)KEC 関西電子工業振興センター
	尾崎 覚	富士電機(株)パワエレ機器事業本部 輸送パワエレ事業部
	加藤 秀克	日本放送協会技術局送受信技術センター企画部
	金子 裕良	(一社)日本溶接協会 電気溶接機部会 アーク溶接機小委員会委員
	木下 正享	(一社)電子情報技術産業協会 ISM EMC 専門委員会
	久保田 文人	(一財)テレコムエンジニアリングセンター 電磁環境・校正事業本部 副本部長
	田島 公博	NTT アドバンステクノロジー(株) ネットワークシステム事業本部 システム開発ビジネスユニット EMCチーム チームマネージャ
	中野 美隆	(一社)日本電機工業会(杉山 直也 三菱電機ホーム機器(株)家電製品技術部 調理機器技術課の代理)
	林 亮司	三菱電機(株)情報技術総合研究所 光・マイクロ波回路技術部専任
	平野 知	日本医療機器産業連合会EMC分科会副主査
	山本 和博	(一財)電気安全環境研究所 関西事業所

(事務局)

谷口 智哉	総務省 総合通信基盤局 電波部 電波環境課 電磁監視官
柴田 由里	総務省 総合通信基盤局 電波部 電波環境課 電磁障害係長
酒井 健司	総務省 総合通信基盤局 電波部 電波環境課 電磁障害係

【配布資料】

資料 12-1	CISPR B 作業班(第 11 回)議事要旨(案)
資料 12-2-1	電波利用環境委員会報告概要(案)(B 小委員会関連)
資料 12-2-2	電波利用環境委員会報告(案)(B 小委員会関連)
資料 12-3	CISPR 杭州会議 B 小委員会審議結果(案)
参考資料 12-1	CISPR B 作業班 構成員名簿

議論

(0)はじめに

- 事務局から配付資料についての確認(柴田)

(1)前回議事要旨(案)確認【資料 12-1】

- 資料 12-1 前回議事要旨(案)についての説明(柴田)
※修正意見等あれば 1 週間以内に事務局まで連絡することで承認された

(2)CISPR 杭州会議 B 小委員会関連審議結果について【資料 12-3】

- 1～6 項についての説明(清水)
 - 1906 賞を塚原氏が受賞した
- 7.1 項 WG1 についての説明(田島)
 - WG1 はケーブル配置問題を検討する
 - アドホックを設置し、今後議論を継続する
- 7.2 項 WG1 TF WPT についての説明(久保田)
 - 昨年のストレージ会議を受けて DC 文章を発行した
 - CISPR/B/663 を 5 月に発行、10 月に意見を取り纏めた(後述)
- 7.3 項 WG1 TF SPC についての説明(清水)
 - オプティマイザーの検討が遅れているとの指摘があった
 - オプティマイザーに関する専門家の不足が課題である
- 8 項 WG2 についての説明(尾崎)
 - WG2 の継続可否について審議があった
 - 杭州会議翌日の会議で、WG2 の継続について DC 文章を発行して意見を募ることとなった
- 11.2 項 CISPR/H についての説明(清水)
 - コモン電流に関する規定が不十分という話があったが、結論は出ていない
- 12.1 項 TC62A についての説明(林)
 - CISPR11 は、大型医療機器の in situ での EMC 測定方法に曖昧さがあることが課題である
 - 測定方法を明確にするためのアドホックを作る方向である
 - ◇ 大型機器は現場以外で測定が出来ないため、in situ とラボ試験の中間に相当する測定方法を今後検討する
 - ◇ in situ での測定が必要なメーカーに参画いただきたい
- 12.1 項 TC22 については、低周波に関する全体的な話があった(清水)
- 12.1 項 TC82 については、本日欠席の吉岡氏に確認する(清水)
- 12.1 項 TC88 については、ウインドタービンに関する審議があった(谷口)
 - 説明者は名簿で確認する(谷口)
- 次回会議はウラジオストクで開催予定(清水)
 - 10/2～10/6 に開催予定である(谷口)
 - 会場は未定である(谷口)

- IEC 総会と合せた開催となる(久保田)
- 資料の誤記修正(谷口、柴田)
 - 5.5 項 摂理を設立へ修正(2 ページ)
 - 7.3 項 一員を一因へ修正(3 ページ)
 - 11.1 項 マンフレッドをステッチャーへ修正(4 ページ)

<(2)の質疑>

- 7.2 項 WPT の中で ITU の話はあったか(清水)
 - ITU では、今年 6 月の会議で WRC(2019 年開催予定)へ向けた作業及び WPT の議論があった(久保田)
 - 上記について ITU から CISPR へ出された文章について説明した(久保田)
- WG2 の今後のメンバーはどうなるか(林)
 - メンバーについては議論していない(尾崎)
 - DC を発行してメンバーを募る予定である(谷口)
 - 最低 5 カ国のサポートが必要となる(井上(正))
 - 来年の総会までに意見をまとめる(清水)
- 11.1 項 CISPR/A について、CISPR/F より懸念とは何か(田島)
 - 30MHz 以下の測定に暗室を使用する案について、暗室の条件が厳しすぎると既存のものが使用できなくなるという懸念があった(井上(正))
 - アドホックは決定していないが、CISPR/A の中で検討する認識である(清水)
- 12.1 項 TC62A の測定方法の検討について、アドホックを設置するか(田島)
 - 設置する見通しである(林)
 - ◇ in situ とその中間の試験方法について、アドホックにて検討する認識である(谷口)
 - ◇ 中国は明確な意図で進めていくと思われ、状況を注視していく必要がある(谷口)
 - 韓国の大型バスの測定でも同様の議論があったが、結論は出ていない(尾崎)
 - 製品などによっても測定は異なる(田島)
 - ◇ 韓国から、大型ディスプレイが飛行機の機器に影響を与えるという話があった(田島)
 - ◇ アメリカからも in situ からタイプテストへ変更したいという提案が昔あった(田島)
 - 本件は、次回のウラジオストクにて審議する(清水)
 - 下記資料をメンバーへ共有する(清水、谷口)
 - ◇ 日報の必要箇所にアンダーラインを加えた資料
 - ◇ 各 WG メンバーに資料 12-3 へ説明を追記いただいた資料
- TF SPC は、蓄電池とオプティマイザーの検討を同時に進めている(井上(博))
 - オプティマイザーは日本側の課題ではなく、英国側の課題である(清水)
 - ◇ オプティマイザーの CD を英国に依頼しているが遅れている(井上(博))
 - ◇ イスラエルの専門家がメンバーに入ったが、検討はあまり進んでいない(林)
 - 日本は蓄電池の検討を中心に進めていく(清水)
 - ◇ 蓄電池については異論なく承認されたため、その旨を資料へ追記いただきたい(清水)
 - ◇ 追記する(谷口)

(3) 電波利用環境委員会報告書(案)について【資料 12-2-1、12-2-2】

- 資料は WPT のみの内容のため、SPC 及び WG の内容を資料へ追記した資料は後日メール審議とする(清水)
- 資料 12-2-1、12-2-2 についての説明(久保田)
 - CISPR11/B/663 審議の結果、2nd CD を改めて発行することとなった
 - ◇ 各国から 200 件以上のコメントがあった
 - ◇ 許容値について合意できなかったため、その項目をはずして 2nd CD を発行する
 - ◇ 許容値の 15db 緩和について、来年 5 月の次回会合で審議する
 - 許容値の 15db 緩和は、4 カ国(スイス、ドイツ、アメリカ、スペイン)から要望意見があった
 - ◇ 日本はエビデンスの無い緩和提案は認められないと主張した
 - ◇ ドイツの一部からも緩和について検討不足の意見があった
 - ◇ 通信妨害の話ではないが、許容値を緩和することで、イモビライザー等の周波数と WPT が被るため、車の扉が開かない、エンジンがかからないなど、既存自動車の機能に影響を与えるリスクがあるとの話があった
 - 韓国から提案している EV バスの設置場所測定方法については 2nd CD ではなく、別に切り分けて CD 文章を発行、審議する
 - ◇ 新しいアドホックグループまたは、アドホックグループ 4 で審議する見通しである
 - ◇ 2018 年に Amendment 1 を発行予定
 - ◇ ウラジオストック総会では審議時間がとれないため、再来年 1 月上旬にドイツで審議予定
 - 150~400kHz、2 時~5 時の高調波緩和を日本から提案した
 - ◇ 3 カ国ほど高調波緩和に反対だったが、現時点では日本の案となっている
 - ◇ 2nd CD で各国が意見を出す可能性もある

<(3)の質疑>

- 許容値の内容を除いた 2nd CD 発行について資料へ追記する(清水)
- 資料 12-2-2 に記載の工業界は、工業会ではないか(井上(博))
 - 確認して修正する(谷口)
- B 作業班の報告内容として、ポイントを 2~3 点追加するべきではないか(井上(正))
 - 現状の資料は WPT の内容のみのため、SPC、WG1 および WG2 の内容を追加してメール審議後、環境委員会へ提出したい(清水)
 - 資料は今週中にまとめる予定である(谷口)
 - SPC、WG1、WG2 からの資料は集まっているか(清水)
 - まだ集まっていない(柴田)

(4)今後の予定

- 12 月 14 日に電波利用環境委員会を開催予定(柴田)
- 電波利用環境委員会の下記資料をメンバーへ送付する(柴田)
 - 日報(WG1、WG2、WPT、SPC)へアンダーラインを入れた資料

- 資料 2-3 へ説明を追記した資料
- 資料 2-2-1、2-2-2 へ SPC、WG1、WG2 の内容を追記した資料
- 次回会合は、主任と相談の上、事務局から構成員にメールで連絡する(柴田)

以上